

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 充実した学びの場を生徒に提供するという本校通信制の使命を共通の認識とし、特色ある教育活動を行っていますか。	①桐高通信制に入学して良かった（学校生活に満足している）と思っている生徒が80%以上である。	①全体集会や個別面談を通して通信制での学びのスタイルを説明する。学校行事等に参加を促して「自分たちの学校」という意識を高める。	A	A	A	通信制の学びが充実したものになるよう、学校行事や個別指導を通して生徒に働きかけを行い、主体的に学習に取り組む姿勢を育成した。今後更に、生徒自ら先を見据えて学習に取り組めるような対策を実施したい。	方策、次年度の課題に沿って、進めていただきたい。 継続して取り組んでほしい。	
		②通信制職員全員がガイドライン（欄外※参照）を踏まえ、本校通信制の教育課題について認識し、業務改善に努める。	②学校運営方針や今年度の重点目標に基づく目標を各教員が設定する。必要に応じて法的根拠を確認し業務を遂行する。	A	A	A	職員全員がガイドラインを踏まえた教育活動を行っている。また、教科と分掌の法的根拠に基づいた目標を各教員が設定し、業務を行っている。次年度についても、通信制の特色を生かした学校の構築に努める。		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③「生徒学習状況表」を年2回以上生徒に配布し、学習指導に活用している。	③レポート・テスト・スクーリングの進捗状況がわかる個人別「生徒学習状況表」を学期末を目安に配付し、その後の学習の進め方に役立てる。	A	B	A	「生徒学習状況表」の配付は、10月以降は月に1回のペースで行った。年度末に向けて、自身の現状把握や後半の学習の進め方に大いに役立った。次年度以降も同様に進めていきたい。	ICTを活用していく取組に注力しても良いのではないかと。 単位修得が難しい生徒に対しては、チャンス相談のようなものを定期的に実施することも考えられると思う。 それぞれの生徒の実態に応じた丁寧な指導を進めていただきたい。	
		④特別活動（LHR・学校行事・生徒会行事など）に満足していると思っている生徒が80%以上である。	④生徒の実態を踏まえ、主体的に学校行事へ参加できるように促し、本校への帰属意識を高める。	A	A	A	生徒の実態に応じた企画・内容となるよう工夫しており、参加生徒の満足度も高い。本校への帰属意識を高め、より主体的・積極的に参加できるように、生徒会等とも連携し、桐高通信制の活性化に努めていきたい。		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤単位修得者の割合が、60%以上である。	⑤「生徒学習状況表」等を活用して計画的に学習を進め、単位修得につながるよう、それぞれの生徒の実態に応じた丁寧な指導を心がける。	B	B	B	「生徒学習状況表」の配付が、その後の生徒の学習計画に有効にはたらく、単位修得につながっている。一方で、単位の修得に至らなかった生徒も一定数おり、そのような生徒への対応について、個々の実態を踏まえながら効果的な対策を考えていきたい。		
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥集団の中でお互いを尊重し、マナーを守り、清掃等の活動に協力している生徒が80%以上である。	⑥生徒が主体となって学校での活動に参加し充実した生活をおくれるよう学校でのルールやマナーについて見直す。	A	A	A	年度当初から集団生活におけるルールやマナー等の周知に努めた。また、各行事等で現状の課題を生徒に説明し、安全で安心した学校生活が送れるように協力を求めた。これから全日制の校舎に移転するが、お互いに協力してルールやマナーを遵守していきたい。	方策、次年度の課題に沿って、進めていただきたい。 継続して取り組んでほしい。	
		⑦学校からの指導（講演会・桐高通信・スマホルール等）を通して、SNS等の危険性について理解が深まったと思う生徒は80%以上である。	⑦専門家による講演会を実施し、また、生徒会活動としてスマホ利用ルールを作り、SNSでのトラブルや危険性の認識を高める。	A	A	A	年度当初にe-ネットキャラバンの講師によるスマホ・ケータイ安全教室を開催し、SNSでの具体的なトラブルについて詳しい説明を受けた。また、新入生歓迎会等の行事で生徒会によるスマホ利用ルールも生徒に周知し、トラブルの未然防止に努めた。		
		⑧質問や心配なことがあるときに先生に相談しやすく、先生は誠実に対応してくれると思う生徒が80%以上である。	⑧普段から生徒への声かけを行い、相談しやすい雰囲気をつくるように教職員へ働きかける。また、スクールカウンセラーを利用しやすい環境作りに努める。	A	A	A	健康アンケートや生活アンケートを活用し、気になる生徒について職員間で生徒情報を共有し不測の事態に備えた。危険箇所について声を掛け合い、注意を促し事故防止に努めた。入学者増加に伴い多様化している生徒については、校外機関や専門家等につなげる等の対応を講じる。		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑨学校でおこなういじめ予防の取り組みやいじめに関する調査が適切に行われていると思う生徒が80%以上である。	⑨普段の生徒への声かけやいじめアンケートの実施を通して、いじめ防止に努め、早期発見に努める。	A	A	A	いじめアンケートを活用したり、校内いじめ対策組織を定期的に開催し、気になる生徒の情報共有を職員間で活発に行った。いじめの定義等に関して校内で研修を行い、職員間の共通理解を図り対応した。		
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩あなたの学校での生活は安心で快適であり、体調不良になった時には適切に対応してくれると思う生徒が80%以上である。	⑩健康アンケートを活用し心身の問題を抱える生徒情報を職員間で共有する。養護教諭との連絡体制の徹底を図る。緊急時の対応について点検をする。	A	A	A		健康アンケート等を活用し、職員間で共通理解の上で支援をおこなった。養護教諭との連絡体制の徹底及び緊急時の対応についての点検に努めた。
			⑪進路についての情報が学校から適切に提供されていると思う生徒が80%以上である。	⑪月報や面談等で得た個々の生徒の情報を共有し、生徒の状況や進路希望をもとに組織的な情報発信に努める。	A	A	A		月報「桐高通信」の発行を通して生徒に必要な情報を提供し、情報を共有しながら進路実現に向けての情報発信を行った。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 個の応じた計画的な指導を行っていますか。	⑫進路説明会や進路講演会等は進路を考えるうえで役立っていると思う生徒が80%以上である。	⑫生徒へのアンケート調査等を行い、生徒のニーズに合った進路行事を企画する。	A	A	A	進路行事に参加する生徒の進路意識は高く、進路行事への関心も高い。今後、参加しない生徒への進路情報の提供に努めたい。	生徒が若い子が増えているのが、素晴らしい。進学も増えてもらいたい。 方策、次年度の課題に沿って、進めていただきたい。 継続して取り組んでほしい。	
		8 生徒は自らの進路（キャリア）について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬進路実現に向けて積極的に取り組んでいると感じている生徒が70%以上である。	⑬生徒の進路に対する考え等を理解するために、調査を行う。また、平日登校等呼びかけ、指導機会を増やす。	A	B	B		卒業予定生に対して進路希望状況等について適宜、声かけをし実態把握に努めた。生徒個々の状況に応じた指導が必要不可欠のため、個別指導に重点を置いて行った。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭月報「桐高通信」には、学習や学校生活に必要な情報は提供されていると思う生徒が80%以上である。	⑭月報の内容および見やすさについて常に工夫と見直しを行う。年間を通じて計画的に発行する。	A	A	A	内容の見やすさや構成の仕方などを随時改善しながら進めた。また、発送するタイミングも学校行事等の状況を考慮しながら行った。	方策、次年度の課題に沿って、進めていただきたい。 継続して取り組んでほしい。	
		⑮桐高通信制のウェブサイト（ホームページ）で情報は適切に提供されていると思う生徒が80%以上である。	⑮月報の内容および見やすさについて常に工夫と見直しを行う。年間を通じて計画的に発行する。	A	B	B	月報「桐高通信」を発送後に、学校webサイトでの公開を行った。計画通り行事報告等を行った。		
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ICT機器を活用した学習活動（スクーリング授業等）によって、学習内容が分かりやすくなったと思う生徒が80%以上である。	⑯積極的にスクーリング授業でICT機器を活用できるように活用情報等の共有の機会を設ける。	A	A	A	スクーリング授業において、積極的にICT機器を活用する機会は増えてきている。今後、さらなるICT活用の授業実践を促進できるように、効果的な活用に向けた研修に努めたい。	方策、次年度の課題に沿って、進めていただきたい。 継続して取り組んでほしい。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ICT機器を活用した情報伝達（webページ・一斉メール）によって、学校からの連絡等が理解しやすくなったと思う生徒が80%以上である。	⑰紙媒体での情報伝達の補完としてデジタル媒体の利用（webページ・一斉メール）を推進する。	A	A	A		職員会議資料はペーパーレスにし、朝会連絡はkinakoを活用した。学校評価アンケートはGoogle formsにより実施し、生徒への連絡手段として一斉メールを使用した。また、学校説明会の申し込みは、Google formsで行った。次年度も業務改善につながるICT活用について検討を進める。